葉いもち早期発見・早期防除

昨年一部地域で多発したように、いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。今年も警戒を怠らずに徹底防除をお願いします。

葉いもちの発生を確認したら直ちにブラシン剤またはノンブラス剤を散布するとともに、お近くの営農センターへご連絡をお願いします。

いもち病防除剤

農薬名	倍率	散布量(10ａ)	使用時期	使用回数	使用方法
ブラシン粉剤ＤＬ	―	３～４kg	収穫７日前まで	２回以内	散布　※散布機の開度は一目盛程度で散布
ノンブラス粉剤ＤＬ					
ブラシンフロアブル	1,000倍	60～150ℓ			均一に散布する。
ノンブラスフロアブル					
コラトップ粒剤５	―	３～４kg	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで		水深最低3cm以上で散布 無人ヘリでの散布可能
コラトップ豆つぶ	―	250～375ｇ			水深3～5cmの湛水状態で均一に散布する。

中後期除草と斑点米カメムシ対策

昨年は雑草発生量が多く、今年の圃場残存種子量は多いと予想されているため、後発雑草の発生は多い見込みです。後発雑草は稲の影に隠れて大きくなるため、発見時には手遅れということもしばしば。溝切りや穂肥散布、草刈り時に合わせて圃場内部に雑草が発生していないか確認してください。

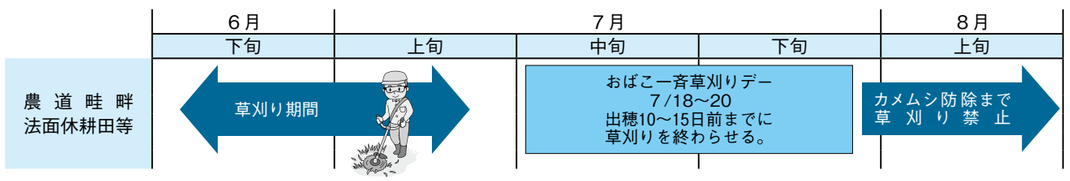
斑点米カメムシ類はノビエ等のイネ科雑草、ホタルイなどのカヤツリグサ科雑草を好むため、おびき寄せないためにも圃場内の除草の他に、農道、畦畔、休耕田などの除草を地域でまとまって行い、繁殖地を無くすことが大切です。

雑草が多い ⇔ 斑点米カメムシ類が多い

圃場内、農道、畦畔、休耕田除草の徹底 → 斑点米カメムシ類住処、繁殖地根絶

剤系	薬剤名	使用量 希釈水量	本剤使用回数	使用時期 使用方法
ヒエ剤	クリンチャー１ﾌﾛｱﾌﾞﾙ粒剤	１kg／10ａ	２回以内	移植後７日～ノビエ４葉期　但し、収穫30日前まで 湛水散布、又は無人ヘリコプターによる散布
		1.5kg／10ａ		移植後25日～ノビエ５葉期　但し、収穫30日前まで 湛水散布、又は無人ヘリコプターによる散布
	クリンチャーＥＷ	100ml／10ａ 25～100ℓ		移植後20日～ノビエ６葉期　但し、収穫30日前まで 湛水散布又は落水散布
	ヒエクリーン１キロ粒剤	１kg／10ａ	１回	移植後15日～ノビエ４葉期　但し、収穫45日前まで 湛水散布、又は無人ヘリコプターによる散
広葉剤	バサグラン粒剤	３～４kg／10ａ	１回	移植後15日～55日　但し、収穫60日前まで 落水散布又はごく浅く湛水し散布※スポット処理可能
	バサグラン液剤	500～700ml／10ａ 70～100ℓ	２回以内	移植後15日～55日　但し、収穫50日前まで 落水散布又はごく浅く湛水し散布※スポット処理可能 注・異常高温下での散布は避ける

水田周辺の草刈り時期



No.4

農業技術情報

令和３年６月発行
発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課

暑さへ備えて生育確認
病害虫雑草の徹底防除を

管内では、５月23日に田植え盛期（50%）を迎えました。田植え期間中の低温や日照不足、強風により、活着や初期生育がやや遅れたものの、その後の天候回復によって生育は持ち直してきています。

今後も気温が高い予報がされているため、高温登熟への備えや雑草、病害虫への対策をしっかりと、確実に行うようお願いします。

あきたこまち定点調査結果（６／10）

	草丈（cm）	茎数（本／株）	茎数（本／㎡）	葉数（葉）
本年値	23.5	5.5	101	5.3
平年値(平年比)	24.9(94%)	7.7(71%)	154(66%)	5.8(-0.5)
前年値(前年比)	26.1(90%)	7.7(71%)	147(69%)	6.1(-0.8)

７月の栽培技術留意点

溝切りの実施

今年の夏は暑いと予報されています。地域全体で水が使えるように節水をしながら、最後まで実るための水分補給のため、効率的な水回しに役立つ溝切りは今年も必須技術です。

高温登熟 節水対策 実りへの水分補給 → ポイント【必須技術】溝切り

生育診断による穂肥

田んぼとイネに合わせて水管理、穂肥判断するためにも、生育調査、観察は必要です。高温登熟を念頭に、暑さを乗り切る穂肥の判断をお願いします。

ポイント 移植日によって圃場生育差 → こまめな生育調査・圃場観察 → 穂肥判断

いもち病対策

昨年多発した地域を中心に、葉色が濃い箇所などを入念に観察しましょう。いもち病は早期発見早期防除が鉄則です。

【警戒すべき箇所】

ポイント
- 葉色が濃い箇所
- 昨年発生した箇所

雑草⇔斑点米カメムシ類対策

今年は斑点米カメムシ類の発生が多いと予報されていますので、繁殖地となる農道、畦畔、休耕田等の除草に加えて、水田内のホタルイやノビエ等の除草徹底をお願いします。

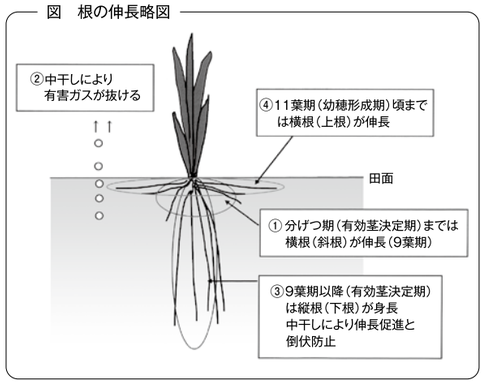
ポイント
- ノビエ、ホタルイ対策
- 斑点米カメムシ類多い予想

適 切 な 中 干 し を

中干しの実施期間は７～10日程度とし、幼穂形成期前までには終了します。中干しの程度は田面に幅１～２㎝程度の亀裂が入り足跡が付く程度としますが、黒ボク土や泥炭土地帯は田面の硬さを直接確認してください。また、田面が白くなったり、亀裂が大きくなったりする過度な中干しは断根し稲体を痛める原因となるため注意が必要です。

中干し終了後は溝切り跡を活用しながら間断かん水とし、土壌を酸化的な状態に保ち根の活力を維持します。

図　根の伸長略図



中干しの効果

- 土中の有害ガスを抜く
- 土中に新鮮な空気を供給
- 根を下方に伸長
- 田面硬化により刈取り機械容易に
- 無効分げつ抑制
- 生殖生長への切り替え
- 受光体勢向上

中干し要点まとめ

- 中干し期間は７～10日程度
- 幼穂形成期前までには終了
- 田面に亀裂幅１～２㎝でOK
- 黒ボク土、泥炭土は直接確認
- 強い中干しはＮＧ

ま だ 間 に 合 う ケ イ 酸

高温が予想されている今夏、ケイ酸は必ず補給しなければならない栄養素です。ケイ酸が十分にあることで、高温下でも稲体の呼吸・蒸散機能が維持され、稲体の夏バテを防ぎ登熱を向上させます。また、籾殻の結合を強くし割れ籾を防ぐことで斑点米カメムシ類による被害を軽減してくれます。ケイ酸は、高温、低温、日照不足等異常気象下での稲作に欠かせない必須成分です。

春先に散布していない方は早期にケイ酸を施用し、整粒歩合を高めます。

中間追肥一覧

肥料名	種類	施肥量(kg／10a)	施用時期	施用効果
おばこロマン大地	ケイ酸含有肥料	20～40kg	幼穂形成期まで	①倒伏抵抗性が高まる　②根の活力向上 ③有効茎歩合向上　④登熟歩合向上 ⑤食味向上　⑥病害虫被害の軽減 ⑦葉身の老化軽減　⑧ワキの発生抑制
けい酸加里		20kg		
ＫＳＫ28		1.4kg（１本）		
ＰＫ40号	リン酸含有肥料	20kg	9葉期まで	異常還元（ワキ）等により、分げつが遅れている稲や根張りの弱い稲に使用。 ①根の活力向上　②有効茎歩合向上 ③登熟歩合向上
マグコープ				

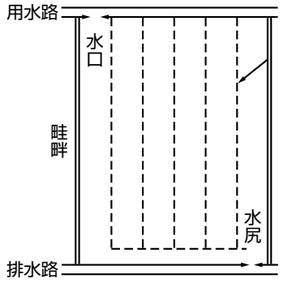
溝 切 り の 実 施

今夏は高温が予想されているため、地域全体で水回しをするためにも、節水をしながら効率的な水管理ができる「溝切り」は今年の稲作の必須技術です。

溝切りは、中干し開始２日後頃の田面がやや軟らかい状態で行います。溝の交差部分と水尻は忘れずに必ず繋いでください。乗用型溝切り機は少し水を張った状態で行うと作業効率が上がります。

圃場整備初年度や排水不良田、高低差がある圃場では必ず溝切りを行ってください。

溝の引き方
（１枚の水田）



溝切りは排水の難度に応じて２～３m（６～12条）間隔で図のように引きます。

また溝の交差している場所と水尻は必ず繋ぎます。

溝切り → 乾田化 → 根の伸長 → 耐倒伏性の向上

生 育 診 断 と 穂 肥

異常気象下でも安定的に収量を維持しながら高品質米生産に取り組むには、稲の生育状況を把握し圃場に合った穂肥など生育管理をすることが大切です。幼穂形成期に生育・栄養診断を行い、診断結果と気象予報に応じた穂肥を行いましょう。

生育・栄養診断の実施（あきたこまち）

【時期別理想生育量】

項目	時期	最高分げつ期	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	上限	52	65	75
	理想	48	60	70
	下限	45	55	65
茎数穂数(本/㎡)	上限	580	560	500
	理想	540	520	470
	下限	500	480	420
葉数		9.8	11	12.5
葉緑素計値(SPAD)	上限	46	44	40
	理想	44	42	38
	下限	42	40	35

生育・栄養診断の実施（ゆめおばこ）

【時期別理想生育量】

項目	時期	最高分げつ期	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	上限	54	69	83
	理想	50	64	76
	下限	46	59	69
茎数穂数(本/㎡)	上限	650	630	560
	理想	580	560	500
	下限	480	460	420
葉数		9.5	10.6	12
葉緑素計値(SPAD)	上限	41	39	39
	理想	39	37	37
	下限	37	34	34

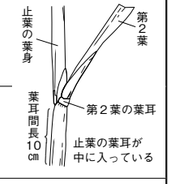
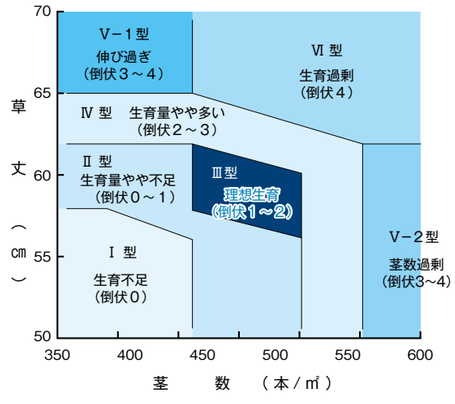
生育・栄養診断の実施（秋のきらめき）

【時期別理想生育量】　（暫定案）

項目	時期	最高分げつ期	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	上限	57	68	80
	理想	54	65	76
	下限	50	63	72
茎数穂数(本/㎡)	上限	560	520	490
	理想	540	500	470
	下限	520	480	450
葉数		9	10	12
葉緑素計値(SPAD)	上限	42	41	41
	理想	40	40	39
	下限	39	38	37

穂 肥 一 覧

肥料名	おばこロマンみのり	おばこロマンめぐみ
施肥量（kg／10ａ）	７～13kg （チッソ換算:1.05～1.95kg）	
施肥時期	出穂前15日	
備考	硫安系　15－４－15 有機20%入り	塩安系　15－４－15 有機20%入り



幼穂形成期（7月15日頃）の生育診断（あきたこまち）